

わたしと看護 Vol.14

乳腺科病棟 3年目

信頼関係を構築し、患者さんに 寄り添う看護の提供を

乳腺科はAYA世代(15歳から39歳)の患者さんも多く、仕事や家族のことなど、様々な不安を抱えながら治療を受ける方も少なくありません。思いを傾聴しながら、チャイルドサポートや就労支援行っています。また、薬物治療による副作用や手術後のボディイメージの変容に対しアピアランスケアの提供など、多職種でサポートを行っています。

九州がんセンターではプライマリーナーシングを導入しており、受け持ち看護師として患者さんと関わり、信頼関係を築きながら支援を行っています。

私が看護を行う上で大切にしていることは「患者さんに寄り添うこと」です。看護師は患者さんの一番近くで関われる存在だと感じています。患者さんの一つ一つの言葉に耳を傾け、必要な調整や、サポートを行えるようスタッフ間での情報共有や多職種で連携しながら支援を行います。大変なことも多いですが、患者さんからの「あなたが担当でよかった」や「ありがとう」の言葉が励みになっています。これからも患者さんにとって必要な看護を提供し、少しでも力になれるよう日々精進していきたいです。



寄り添う看護の提供を